

第1回検討会に係る補足説明

	関係議事	指摘事項	対応状況
1	平成29年度における八郎湖の水質について	八郎湖の水質は、流入水に影響されるところが大きいので、窒素、リンについてのデータも示してもらいたい。	前回資料に河川と排水機場の窒素、リンのデータを追加しました。(資料7)
2	平成29年度までの目標達成状況	実施状況、進捗状況の全体値について、数値を精査するべきである。	参考目標値の項目については、評価しないことにしました。(資料8)
		第3期計画の策定にあたっては、シミュレーションで毎年のデータを求めるべきである。	対応を検討中です。
3	水質保全対策の検討(湖内流動化)	シミュレーションでは、西部承水路の流動化による水質改善効果があるとしているが、どの水質が改善されて、その理由はなぜか、また、どこに焦点を置くのか整理する必要がある。	シミュレーションを実施した事業者と水質改善理由を整理中です。そのため、流動化方向の変更は、今後有意性が確認できた場合に検討することになりました。(資料6-5)
		シミュレーションの結果と実際にやってみた結果、今後したいことが理解しにくいいため、内容を整理すべきである。	資料を修正しました。(資料6-5)
		アオコの発生抑制効果について、シミュレーションではアオコの概念は無いが、優先する種は調べられるのではないか。	事業者と協議のうえでシミュレーションに取り入れます。
4	水質保全対策の検討(農地対策)	特別栽培などより、PやKが少ない肥料への転換必要である。	第3回検討会で対応予定です。
		GNSS自動操縦田植機の普及を支援をするようなシステムづくりが必要である。	〃
		無代かき栽培の助成等、農家が取り組むための動機付けが必要である。	〃
5	その他	八郎湖流域の河川源流部のリンが高い等指摘があるため、シミュレーションの際はこのようなデータも取り入れてほしい。	当該データを加味した流域の負荷原単位を採用しています。
		長期ビジョンの達成のためには、具体的な構造を検討するためのワーキンググループの立ち上げ等を検討して欲しい。	長期ビジョンの達成に向けて、計画を進める中で参考にします。
		シミュレーションで効果が表せるものは目標を設定できるが、表せないものは努力目標となるため、それらは明確に分けるべきである。	区別がつくよう計画への記載方法を工夫します。